

令和5年2月21日

令和4年度第2回県南東部地域医療構想調整会議

吉備高原医療リハビリテーションセンター 古澤一成

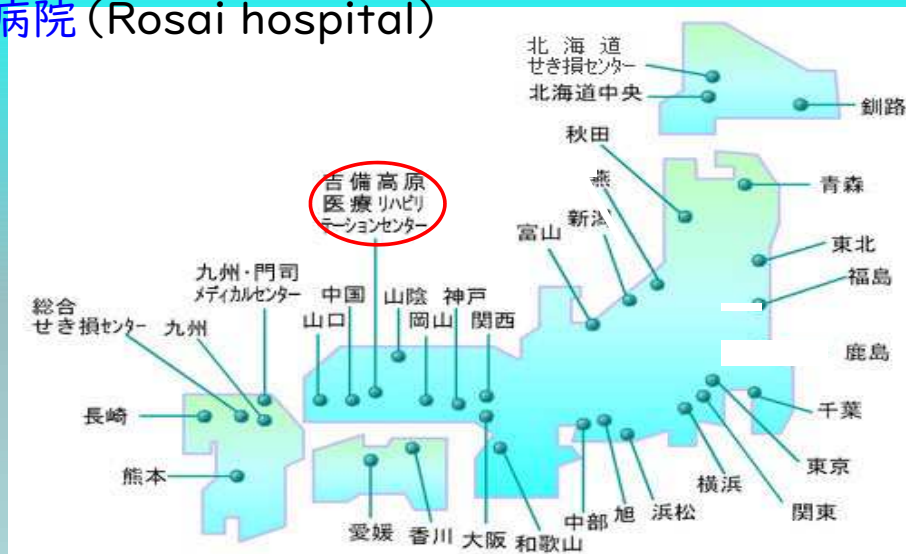


独立行政法人 労働者健康安全機構 吉備高原医療リハビリテーションセンター
〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川1751-1 TEL:0866-56-7141



© CyberMap Japan Corp.

独立行政法人労働者健康安全機構 (Japan Organization of Occupational Health and Safety:厚生労働省所管の独立行政法人) に属する労災病院 (Rosai hospital)



▶ 達成すべき数値目標

- 「社会復帰率 (家庭復帰、復職・復学、職業リハ) $\geq 80\%$ 」
- 「患者満足度調査の満足度 $\geq 80\%$ 」

当センターの目指すべき役割と診療機能

1. 専門的リハビリテーション (以下リハビリ) 医療

- ◆ 広域のエリア (中四国地方を中心とした西日本) を対象とした高度のリハビリ医療専門病院であること。
- ◆ 特に脊髄損傷のリハビリ医療における “Leading hospital” として、職業復帰などの良好な社会的アウトカムを生み出し (「社会復帰の質」へのこだわり)、さらにそのためのノウハウを他施設に伝達することで脊髄損傷のリハビリ医療の普及・発展に努める。

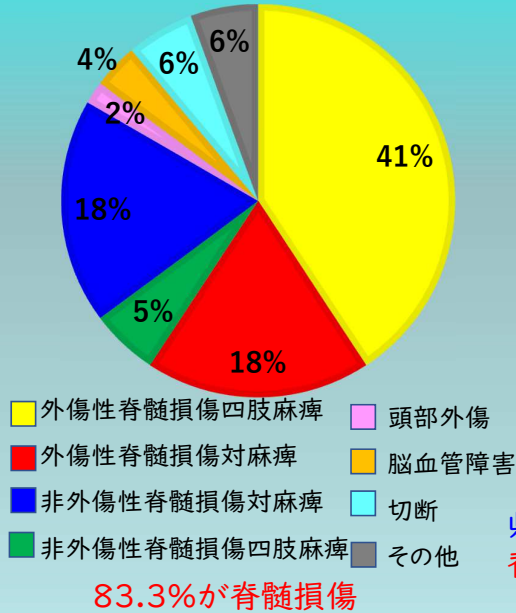
2. 地域医療

- ◆ 当センターが立地する吉備中央町 (令和4年「デジタル田園健康特区」の指定) における唯一の入院可能な一般病床を有する医療機関として、地域自治体や岡山大学と密接な連携を取り地域医療の拠点機能を持つ。

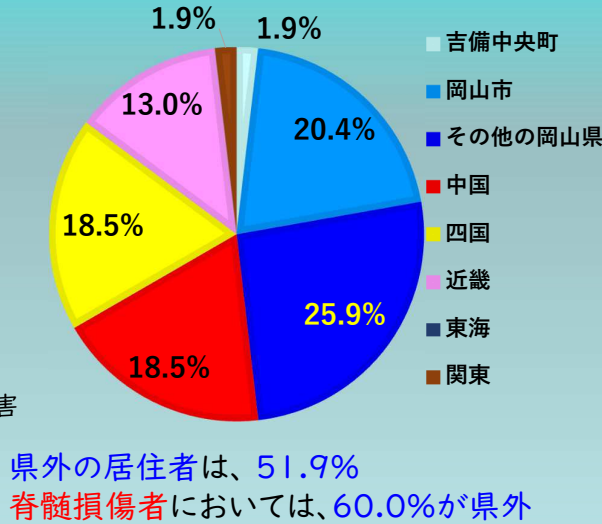
高度な専門的リハビリ医療の実施

リハビリ治療結果(令和4年4月~12月, n=54)

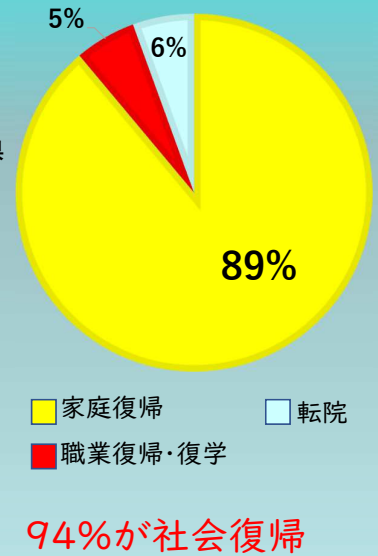
◆ 専門的なりハビリ医療 リハビリ治療対象者



◆ 広域のエリア 対象者の居住地



◆ 良好な社会的アウトカム 社会復帰率



地域医療について

- ◆ 吉備中央町は、二次医療圏である岡山県南東部よりも高梁・新見医療圏に近く中山間地域に位置している。
- ◆ 当センターが、町内で入院可能な一般病床を有する**唯一の医療機関**である。
- ◆ 当センターで対応困難なケースについては、岡山市や倉敷市などの総合病院へ紹介し、**急性期医療後の後方病院**として活動しており、**地域医療においても大きな役割**を担っている。

デジタル田園健康特区としての吉備中央町における 吉備高原医療リハビリテーションセンターの役割について



◆ 「デジタル田園健康特区.概要」(国家戦略特別区域諮問会議資料より)
 「人口減少、少子高齢化、コロナ禍など**地方の課題解決のモデル化**
 を目指す。」→「**医療資源の乏しい地域**」の医療のモデルの構築

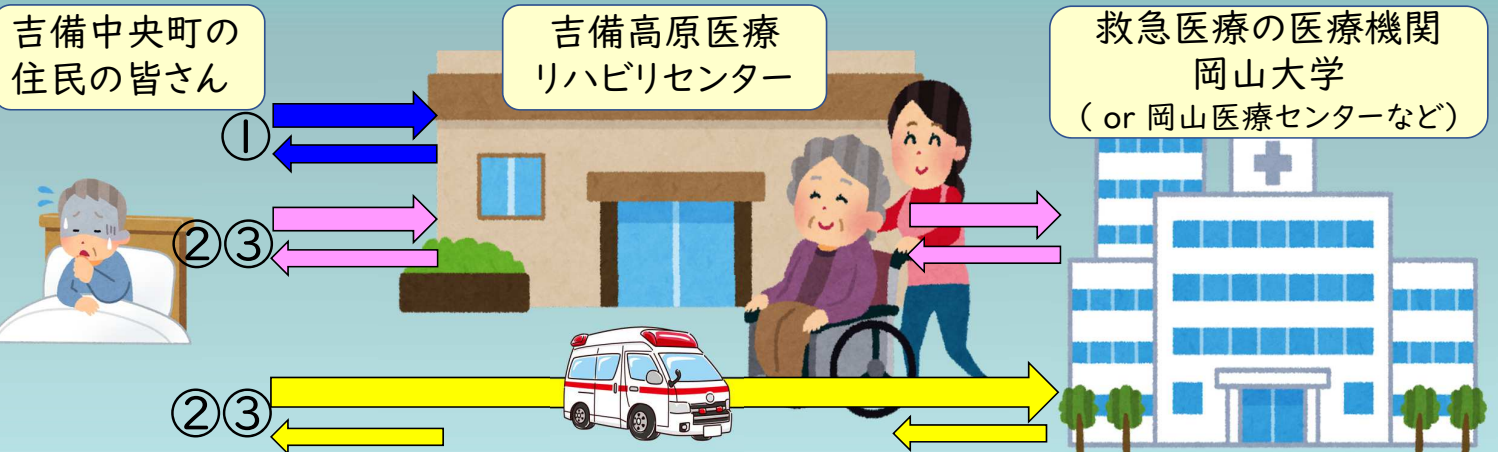
◆ 「医療資源の乏しい地域」の医療のモデル

地域で医療を受けるというのが、住民の皆さんの一番のニーズです。
 (地域住民の調査:61.8%が求めており、ニーズの第1位)。

地域医療における当センターの役割は、主に3つと考えます。

- ①地域住民のcommon diseaseの治療
- ②総合病院での治療を要する疾患の見極め(搬送)
- ③総合病院での急性期治療後の受け皿

内科系、整形外科系の
 医師の必要性



リハビリ医療と地域医療の両立を図るための病棟編成

障害者施設等一般病棟 50 床 (専門的リハビリ医療)

障害者施設等一般病棟 50 床 (専門的リハビリ医療)

一般病棟 50 床 (地域一般医療)

障害者病棟は高度な専門的リハビリ機能を持つ回復期の病床として、一般病棟は、地域医療における後方支援を担う回復期の病床として対応する。

独立行政法人 労働者健康安全機構
吉備高原医療リハビリテーションセンター

公的医療機関等2025プラン

平成29年12月 策定
令和 5年 2月 改訂

【吉備高原医療リハビリテーションセンターの基本情報】

医療機関名：吉備高原医療リハビリテーションセンター

開設主体：独立行政法人 労働者健康安全機構

所在地：岡山県加賀郡吉備中央町吉川7511

許可病床数：150床

(病床の種別)

一般病床 50床

障害者病床 100床

(病床機能別)

回復期病床 150床

稼働病床数：101床

(病床の種別)

一般病床 0床

障害者病床 101床

休床 49床

(病床機能別)

回復期病床 101床

診療科目：

内科、神経内科、整形外科、アレルギー科、皮膚科、
泌尿器科、リハビリテーション科、歯科

職員数：(正規職員)

- ・ 医師 7名
- ・ 看護職員 50名
- ・ 医療職員 32名
- ・ 事務職員 14名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

当センターは、二次保健医療圏は県南東部医療圏に属するが、地理的には高梁・新見地域に近く、周辺地域の吉備中央町では年齢構成でも高梁・新見保健医療圏と似ている。

当センター地域の吉備中央町の人口推計では、現在、町の人口は約12,000人、今後も人口減少が続き5年間で約1,000人減少していく状況であり、高齢化率も39%→44%に上昇すると予想され、2025年には10,200人、2040年には人口8,000人となることが予測されている。

・人口動態（吉備中央町）

	人口	高齢化率
2015年11月	12,000 人	39.8%
2025年（推計）	10,200 人	43.4%
2040年（推計）	8,000 人	44.6%

また、県南東部医療圏の1日入院患者数の推計では、年々増加していくものの2035年をピークに減少していくと推計されているが、65歳未満の患者数は今後経年減少していくと予想されている。

② 構想区域の課題

岡山県の地域医療構想で示されているとおり、県南東部医療圏において回復期機能の病床数は平成37年段階で、約1800床が不足するとの推計が出されている。

なお、当センター周辺地域の吉備中央町では、救急医療機関や救急車の適切な利用が図れるよう救急体制を図り、県南東部保健医療圏と連携し、二次救急や三次救急が適切に受けられるよう、県・医師会等関係機関への働きかけが必要と認識している。また、在宅医療連携推進等により医師会、介護関係者、保健所との連携を密にし、健康課題の共有、保健事業への協力体制などの協議を行いながら顔の見える関係づくりにつなげているが、医師の不足や高齢化による医療機関の減少により、診療科目間の偏在是正を重要な課題としている。

その中において当センターの担う役割は大きい。



・岡山県南東部保健医療圏（岡山県保健医療計画から）

構想区域別病床数の現況および推計の比較

	2015年	2025年	増減
高度急性期	2,385	1,187	▲ 1,198
急性期	4,724	3,335	▲ 1,389
回復期	1,129	2,927	▲ 1,798
慢性期	2,655	2,029	▲ 626

③ 自施設の現状

・病院の理念

「リハビリテーション医療の技術を通じ、身体障害者（主に肢体障害者）の
ＱＯＬに奉仕する」

・基本方針

- 1) リハビリテーション医療の専門病院として、入院から社会復帰、さらに社会生活の維持まで個々の障害レベルにふさわしい一貫したリハビリテーション医療を提供します。
- 2) 職業リハビリテーションセンターとの連携のもとに、勤労年齢の障害者の職業復帰を医学的に支援します。
- 3) リハビリテーション・マインドをもって全人的視野での地域医療を行います。
- 4) 患者さんの人権を尊重し、安全で良質、満足の得られる医療を行います。
- 5) 患者さん参加の医療を心がけ、また患者さんには正確な情報を提供するよう努めます。

上記の理念と基本方針を掲げ当センターの設置目的と政策医療と合わせ運営している。

また、5年毎の中期目標として、「重度の被災労働者の職業・社会復帰を支援する専門的医療を提供する」こととしており、全国的に政策医療を実践するリハビリセンターとしての評価を得るため、リハビリテーション医療のアウトカムを公開し広報に努めてアピールしている。一方では吉備中央町周辺地域における地域医療も担っており、地域住民が安心して医療が受けられるよう医療の質の向上に努めている。

・病院概要

開設：昭和62年6月

許可病床数150床（一般病床50床、障害者病床100床）

診療科目：内科、神経内科、整形外科、アレルギー科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科、歯科

④ 自施設の課題

- ・専門医療として広く中四国地域の肢体障害者、特に脊髄損傷患者のリハビリテーション治療を今後も担っていくこと。
- ・脊髄損傷患者の退院後の社会生活維持を目的としたフォローアップ。
- ・脊髄損傷患者（重症者）の増加における看護・介護スタッフの負担増。
- ・総合病院における急性期医療後の受け皿としての体制整備。
- ・医師の確保（特に内科医師確保が喫緊の課題であり、当センターの地域医療の役割上、また、リハビリテーション医療チームの一員として必要）。
- ・人口減少と高齢化による地域医療の入院患者の確保。
- ・地域の医療機関との連携。
- ・地域の行政機関・包括支援センターへの広報周知・連携。
- ・地域の介護施設・ケアマネージャー・訪問看護ステーション・ヘルパー等との連携。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・当センターは全国広域的な視点で専門的で高度なリハビリテーション医療を通して中途障害者の社会復帰・社会生活の維持を図るために個々の障害のレベルにふさわしい療養者ではなく生活者としてのゴールを目指す包括的なリハビリテーション治療を提供するとともに、岡山県吉備高原都市の中核的医療施設として県南東部保健医療圏の吉備中央町を中心とする地域医療も担っているところである。
- ・吉備中央町は二次医療圏である岡山県南東部よりも高梁・新見医療圏に近く中山間地域に位置しており人口約12,000人、高齢化率は過去5年間で37%→40%に上昇。今後も人口減少は続き2025年には10,200人、2040年には人口8,000人となることが予測されている。町内には、一般病床を持つ入院可能な病院が存在しないことから、当センターが地域医療上の要望としてそれを担っているが、当センターで対応できない疾患や重篤な状態の患者は岡山市内の急性期病院に紹介しており、**急性期を経た患者の後方病院としての役割を担う重要性が増している。**
- ・地域における自院の役割として、①**地域医療：内科的・整形外科的common diseaseを急性期の医療機関と連携し、後方病院として診療できる体制を整備すること**、②**専門医療：全国広域的に主に近畿・中四国を対象とする脊髄損傷を主体とする高度・専門的リハ医療を推進していくこと**としている。

② 今後持つべき病床機能

許可病床数：150床

(病床の種別)

一般病床 50床

障害者病床 100床

の維持に努め、**一般病棟を後方支援の役割を持つ回復期病床として、また、障害者病棟を高度専門的リハ機能を持つ回復期病床として対応するものとする。**

なお、当地域周辺の医療情勢から、一般病床50床は必要であると考える。

③ その他見直すべき点

当院が地域医療における役割を果たすには、内科の再構築が喫緊の課題であることから、引き続き内科医の募集・派遣要請を行い、入院患者の増加をサポートする体制を整備してゆく。入院体制は、常勤医師の専門性によって弾力的に考慮する。

内科系外来は**令和3年7月以降**複数の非常勤医で専門外来診療が行われている（一般内科・神経内科・循環器内科・呼吸器内科）。当面は**非常勤医師の派遣を関係大学及び関係医療機関に継続要請し、現状を維持しながら常勤医の確保状況で弾力的に運営していく予定。**リハ科医師は入院患者の重症化、医学研究推進のため増員が必要と考えられる。整形外科も同様に継続的に募集・派遣要請を行う。併せて整形外科・リハ科の壁を低くし入院患者増を図る。

一般病棟の**再稼働時には**従前の15:1看護基準を維持していく。看護師充足に向けて公式（養成校訪問・実習受託、院長推薦、奨学金制度HP、募集イベント参加など）、非公式（人脈、口コミ、自治体の支度金利用、短期研修、見学など）を問わず募集を継続する。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	50		0
回復期	100		150
慢性期			
(合計)	150		150

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	/	/	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;"> 2年間程度で 集中的な検討を促進 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #f4a460; padding: 10px; text-align: center; width: 150px;"> 第7期 介護保険 事業計画 </div> <div style="background-color: #90ee90; padding: 10px; text-align: center; width: 30px;"> 第7次 医療計画 </div> </div>
2018年度			
2019～2020 年度			
2021～2023 年度			

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・病床稼働率：64%→75%以上
- ・紹介率：30%→50%
- ・逆紹介率：30%→50%

経営に関する項目*

- ・人件費率：78%→60%以下（対施設収入）
- ・業務委託比率：8%→6%以下（対施設収入）

その他：

- ・社会復帰率の維持向上：90%以上
- ・患者満足度調査：90%以上

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)